



－第31号－

地域・だいがく連携通信 －神戸大学地域連携ニュース－

神戸大学地域連携推進本部

〒657-8501

神戸市灘区六甲台町1-1

TEL：078-803-5391

FAX：078-803-5389

E-mail：ksui-chiiki@office.kobe-u.ac.jp



神戸大学がラジオ関西と連携協定を締結、4月より 本学の情報発信番組「神戸大学☆夢ラボ」がスタート

ラジオ関西で神戸大学の情報番組を放送します



神戸大学☆夢ラボ
毎週日曜 8:45-9:00



出演候補

- SDGs、カーボンニュートラル関連などの先端研究紹介
- 地域連携プロジェクトの紹介
- 学生からの発信（課外活動、学生広報チーム）
- その他（ビジョン発信プロジェクト、大学発ベンチャーなど）

出演形態

- 本学キャンパスにて事前収録（所要約1時間）
- ひとり分を2週にわたって放送を基本とし、1年で26～30人が出演

学内担当 地域連携推進本部、広報課、連携推進課

出演のお願いをさせていただいた際にはご協力をお願いします

ksui-chiiki@office.kobe-u.ac.jp

本学は令和5年3月1日（水）株式会社ラジオ関西と連携協定を締結しました。本学がラジオ局と連携協定を締結するのは今回が初めてです。

この協定において、ラジオ関西と本学は、放送を通じて大学からSDGsやカーボンニュートラル関連の研究や、地域連携プロジェクトの紹介による地域社会への貢献と発信、学生も交えた地域活性化の取組や人材育成において連携・協力していくことを表明しました。

4月2日（日）以降、本学の情報発信番組として毎週日曜の朝8時45分から15分の番組「神戸大学☆夢ラボ」がスタートすることになりました。

初回は本学藤澤正人学長が、二回目は地域連携推進部長の奥村弘副学長・理事が出演し、今回の連携協定の目的や意義を始め、今後本番組で紹介される内容などについて披露する予定です。

ラジオ関西「Clip」GO！HYOGO！（ゴー・ヒョウゴ） コーナー内で本学地域連携事業が紹介

令和3年にラジオ関西の桃田武司代表取締役社長（＝当時）らが来学され、ラジオ関西と本学の間との連携事業について協議が行われました。その結果、ラジオ関西の番組「Clip」内の「GO！HYOGO！（ゴー・ヒョウゴ）」コーナー（第5火曜、15:15～15:25の10分間）内にて、計4回分、本学の地域連携事業が取り上げられることとなりました。



初回の令和4年5月31日（火）は奥村理事が出演し、本学全体の地域連携事業のあり方について紹介しました。第2回（8月30日）は、保健学研究科の和泉比佐子教授により、同研究科地域連携センターでの高齢者支援などの取組みについて、第3回（11月29日）は、人文学研究科の市沢哲教授と同研究科大学院生により、同研究科地域連携センターの取組みや神戸村文書の研究成果について、第4回（1月31日）は、農学研究科の田中丸治哉教授と農業サークル「にしき恋」「AGLOC」メンバーにより、同研究科地域連携センターの取組みや丹波篠山市内での学生による農業サークル活動について、パーソナリティの紅しょうがさんとの和やかな掛け合いの中で放送されました。

第4回目の内容については、「神戸大学の『農業体験型授業』 丹波篠山の農家に“弟子入り” 無人駅マルシェ、ベジタリアンメニュー考案も」として、ラジトピのHP上にも掲載されています。こちらをご覧ください。<https://jocr.jp/raditopi/2023/01/31/480593/>

大学発アーバンイノベーション神戸成果報告会を開催



会場で一部の研究内容を
パネル展示した



年度	部局	役職/ 代表者氏名	区分	研究課題名
1	R2	人文学研究科 特命助教 井上 舞	一般	神戸市域に所在する文書群の調査・活用・公開に関する研究
2	R2	人文学研究科 特命助教 加藤 明恵	一般	灘の酒造家吉田家の文化・学術活動の研究
3	R2	人文学研究科 准教授 佐々木 祐	一般	「病」と「厄災」をめぐる比較都市史的研究：感染症対策と公衆衛生言説を中心に
4	R4	人文学研究科 准教授 菊地 真	一般	神戸港に関する地図資料類の調査、データベース化と普及活用に関する研究
5	R4	人文学研究科 准教授 佐々木 祐	一般	「外国ルーツの子どもたち」支援を軸とした多文化都市創生のための実証的研究
6	R2	国際文化学 研究科 准教授 辛島 理人	一般	神戸における観光資源の再設定：ユダヤ人観光の可能性
7	R4	国際文化学 研究科 講師 衣笠 太郎	一般	神戸ユニオン教会における歴史資料の調査・分析および観光資源としての活用
8	R2	人間発達環 境学研究科 教授 佐藤 真行	一般	新型コロナウイルスの感染拡大下での都市の生態系サービスとその評価
9	R2	人間発達環 境学研究科 准教授 原田 和弘	一般	新型コロナウイルス感染症流行下における高齢者の運動不足解消支援の効果検証
10	R2	人間発達環 境学研究科 准教授 大野 朋子	一般	感染症対策下における都市公園の重要性評価とこれからの公園利用への提案
11	R2	人間発達環 境学研究科 准教授 北野 幸子	一般	保育のICT環境に関する実態調査と保育者支援システム創りに関する研究
12	R3	人間発達環 境学研究科 准教授 山根 隆宏	一般	神戸市内の放課後等デイサービスの支援力向上を目的とした実践型研修プログラム開発
13	R3	人間発達環 境学研究科 准教授 源 利文	一般	生物多様性に関する市民意識の把握と市民参加型の多様性調査手法の開発
14	R4	人間発達環 境学研究科 准教授 大野 朋子	一般	コロナ（COVID-19）感染症発生後の都市公園に対する意識・行動変化と課題からみる公園と街路樹空間を生かした新たな緑都市への展開
15	R4	人間発達環 境学研究科 助教 山本 健太	一般	大学における障害のある人の超短時間雇用の有効性の検討—インクルーシブシティKOBLEを目指して—
16	R4	人間発達環 境学研究科 准教授 増本 康平	複合	ウェルビーイングの実現に資する社会的つながりの新たな推定・評価方法の確立
17	R2	法学研究科 教授 砂原 庸介	一般	デジタル化に対応した行政法規の研究
18	R4	法学研究科 教授 藤村 直史	一般	国際的な人の往来再開に伴う外国人との共生都市神戸の再設計
19	R3	経済学研究科 教授 衣笠 智子	一般	神戸市農業のイノベーション促進要因の探求—IT導入と6次産業化に注目して—
20	R3	経済学研究科 特命講師 小島 理沙	複合	ライフスタイルの多様化が進行する超高齢社会における資源回収システムデザインの研究
21	R2	経営学研究科 准教授 森村 文一	一般	新型コロナウイルス感染症拡大による制限等緩和後の消費者のデジタル経験の継続利用または地域コミュニティへの回帰に関する研究
22	R3	経営学研究科 教授 保田 隆明	複合	地域ポイント制度による、地域コミュニティ再構築および経済活性化に関する効果研究
23	R4	経済経営研 究所 准教授 近藤 恵介	一般	人流データを活用した神戸観光の推進と商業活性化
24	R4	計算社会学 研究センター 助教 正田 ヴェラバオラ	一般	神戸市におけるSNSを用いた「妊娠・出産・子育て支援」の心理的欲求研究
25	R4	計算社会学 研究センター 特命講師 小代 薫	一般	魅力づくりのための、神戸の歴史的風景に含まれる「匂い」や「音」といった視覚以外の感性価値に軸を置いた観光資源開発に関する研究
26	R2	工学研究科 教授 寺田 努	複合	スタジアム体験における自然な混雑緩和に寄与する要素の探索
27	R4	工学研究科 客員准教授 大津 暢人	一般	街区表示を活用した要配慮者の避難支援に関する研究
28	R3	システム情 報学研究科 准教授 藤井 信忠	複合	Society5.0時代のWithコロナ社会に対応した神戸都心・三宮地区におけるICTエリアマネジメントに関する研究
29	R4	農学研究科 助教 東 若菜	一般	都市緑地の温暖化適応策に向けたグリーンインフラ整備戦略
30	R4	医学部附属 病院 副看護部長 ウィリアムソン 彰子	企業	患者VRモデルを用いた看護実習を遠隔体験できるメタバース病棟の開発
31	R4	保健学研究科 特命助教 沖 侑太郎	企業	認知症予防に対する多因子介入プログラムの効果検証と社会実装拡大に向けた課題抽出～認知症予防を加えた新たな認知症神戸モデルの構築に向けて～
32	R4	産官学連携 本部 客員教授 山川 義徳	企業	農脳連携を通じた都市農村交流の促進

地域課題解決をテーマにした若手研究者らの研究を神戸市が支援する「大学発アーバンイノベーション神戸」の成果報告会が令和5年2月9日、神戸大学百年記念館六甲ホールで開かれました。神戸大学の研究者4人のプレゼンテーションに続いて、「地域課題解決に向けた産官学連携の在り方」と題して、久元喜造神戸市長や藤澤正人神戸大学長ら6人が討論しました。会場とオンラインを合わせて約180人が参加し、ホール内では研究内容の一部がパネルで紹介されました。

「大学発アーバンイノベーション神戸」は、主に人文、社会学分野の若手研究者の研究を身近な地域課題や行政課題の解決につなげる目的で、神戸市が令和2年度に導入しました。研究者が自由に提案する場合は1件あたり300万円を上限に研究費が助成され、企業と連携した提案は1件あたり1200万円が上限となっています。令和4年度までの3年間で、神戸大学や関西学院大学、兵庫県立大学の研究者らの研究計45件が採択されました。

成果報告会は初めて開かれ、採択された神戸大学の4人の研究者が発表しました。加藤明恵人文学研究科助教は「灘の酒造家吉田家の文化・学術活動の研究」について報告し、衣笠智子経済学研究科教授は「神戸市農業のイノベーション促進要因の探求～IT導入と6次産業化に注目して～」と題し、神戸市内農家へのアンケートの分析結果などを紹介しました。沖侑太郎保健学研究科助教は、神戸大学が開発した認知症予防プログラムについての実証研究の内容を解説しました。寺田努工学研究科教授は楽天モバイルなどとチームで研究した「スタジアム体験における自然な混雑緩和に寄与する要素の探索」をテーマに、サッカーの試合ではポイント付与などのインセンティブで帰宅が分散されるという研究成果を紹介しました。この研究は、このほど内閣府の第5回日本オープンイノベーション選考委員会特別賞を受賞しました。

続いて行われた討論会では、勝沼直子神戸新聞論説委員長をファシリテーターに藤澤正人学長、久元喜造神戸市長、永吉一郎神戸デジタルラボ社長ら5人が、大学と自治体、企業が地域課題の解決にどう連携していくかについて話し合いました。まず、辛島理人国際文化科学研究科准教授が、採択された研究テーマの「神戸のユダヤ人観光の可能性について」の研究活動を踏まえ、「通年で安定した集客を」などと訴えました。「神戸市域に所在する文書群の調査・活用・公開に関する研究」で採択された井上舞人文学研究科特命講師は、地域で歴史資料を保存することを求めました。

藤澤学長は「大学も自治体と車の両輪になって、さまざまな地域課題の解決に取り組んでいきたい」と強調し、久元市長は「グローバル社会で都市は歴史を尊重することが大切。新設する公文書館でしっかり保管し、地域でも個人が保管する文書の保存方法を考えたい」などと話しました。また、永吉社長は「地域課題解決のためにこの取り組みが続くことが重要。企業としてもふるさと納税などで支援していきたい」などと応じていました。



若手研究者4人が研究成果を発表
(神戸大学百年記念館六甲ホール)

久元喜造神戸市長や藤澤正人学長ら6人が
「地域課題解決に向けた産官学の連携の在り方」をテーマに討論した

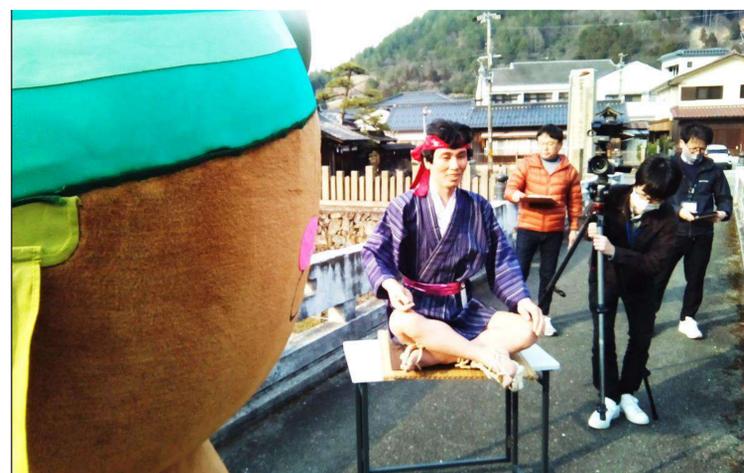
朝来市生野の観光PR動画作成への協力 (国際文化科学研究科地域連携センター)



朝来市と神戸大学は平成16年に大学協定を結び、それ以来さまざまな連携活動を実施してきましたが、本年度は、生野銀山や平成29年に日本遺産に認定された「銀の馬車道」などで知られる朝来市生野の歴史と魅力を伝える短編PR動画を共同で制作しています。本動画では特に若年層にアピールするために、兵庫県立生野高等学校のマスコットキャラクター「いくのん」と、生野銀山の“地下アイドル”として近年人気を誇るGINZAN BOYZの「よさぶろう」に出演してもらい、現在撮影が進

められています。完成した動画はYouTubeで公開されるほか、県内各地のイベントでも上映を計画しています。

本学からは映画学が専門の板倉史明教授（国際文化科学研究科）と、歴史学が専門の井上舞講師（人文学研究科）がシナリオ制作に参加しています。生野は、黒澤明監督の『生きる』（1952年）に主演した俳優の志村喬（1905-1982）のふるさとでもあり、志村喬記念館には彼の活躍をしのぶ写真や映画ポスターが展示されているほか、生野銀山の福利施設・協和会館で実際に使用されていた35ミリ映写機なども展示されています。



第21回歴史文化をめぐる地域連携協議会「自治体史編さんの現在」開催（人文学研究科地域連携センター）



2023年 対面開催
1月21日(土)
13:00～17:00
神戸大学
瀧川記念学术交流会館

自治体史編さんの現在
参加と活用の新しい取り組み

申込方法
参加無料 事前申込制(定員80名)
神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターHP
(<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~area-c/>)に設置した
フォームよりお申込みください
右のQRコードからも申込可能です
申込締切 1/18(水)

地域の歴史を知るための手掛かりのひとつである自治体史は、近年、大きな曲がり角を迎えています。編さん過程で住民参加型の資料調査や本文の執筆が行われたり、本文や資料をデジタル化し、ウェブ上で公開するなど、多様な展開がなされています。今回の協議会では、各地の自治体史の編さんと活用に関する事例を取り上げ、自治体史の抱える課題や今後の展望について、皆さまと議論を重ねていきたいと思っております。多数のご参加をお待ちしております。

登壇者
河野 未央氏(尼崎市立歴史博物館あまがさきアーカイブズ)
中村 光夫氏(元尼崎市立地域研究史料館職員)
廣井 愛邦氏(三木市総務部市史編さん室)
成田 雅俊氏(丹波篠山市教育委員会)
高橋 伸拓氏(茨木市文化財資料館)
奥村 弘氏(神戸大学大学院人文学研究科)

問合せ
神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター(担当:井上 舞)
神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 TEL/FAX 078-803-5566
E-mail: area-c.kyogikai@people.kobe-u.ac.jp URL: <http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~area-c/>

主催 神戸大学大学院人文学研究科
神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター
共催 兵庫県教育委員会
科学研究費特別推進研究「地域歴史学を軸とした災害列島における地域存続のための歴史文化の創造」研究グループ(研究代表者:奥村弘)
大学共同利用機関法人人文学文化研究機構「歴史文化資料保存の大学・共同利用機関ネットワーク事業」

詳細はホームページをご覧ください

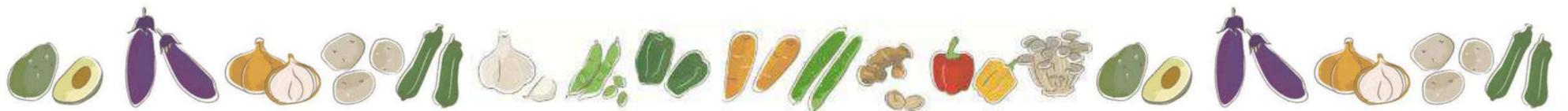
令和5年1月21日、神戸大学瀧川記念学术交流会館において、第21回歴史文化をめぐる地域連携協議会が開催されました。今回のテーマは「自治体史編さんの現在－参加と活用の新しい取り組み－」でした。前半の事例報告では、尼崎市・三木市・丹波篠山市・大阪府茨木市の自治体職員の方をお招きし、編さん後の自治体史の活用や、地域住民と協働した編さん事業、編さん後の史料の利活用について報告いただきました。また、これまで多くの自治体史編さんに携わった、人文学研究科教授の奥村弘より各報告へのコメントがありました。

後半の総合討論では、参加者から多くの質問や意見、感想が出たほか、報告者間でも活発な議論が交わされました。

コロナ禍のため、第19回・20回はオンライン開催でしたが、今回は対面での開催となりました。



感染症予防の観点から、参加者同士の交流の時間は短かったものの、久しぶりの再会を喜ぶ声フロアにあふれる充実した会となりました。



実践農学入門成果報告会（農学研究科地域連携センター）

神戸大学農学部では、丹波篠山市の農家に学生が弟子入りし、農業と農村を実体験から学ぶ授業科目「実践農学入門」を開講しています。この授業では、年に6回、土曜日にバスで履修生が丹波篠山市に行き、現地で農作業を体験するとともに成果報告会を行っています。

令和4年度の「実践農学入門」は古市地区が履修生を受け入れて下さいました。令和5年1月21日(土)には、古市コミュニティ消防センターで成果報告会が開催され、同授業に参加している兵庫県立篠山東雲高等学校の1班を含めた合計10班が地元を活性化するための様々な提案を発表し、参加者との活発な質疑応答を行いました。この成果発表会には、履修生と関係教員に加えて地元農家の皆さんや酒井隆明市長を始めとする市役所の皆さんなど多くの方々にご参加いただきました。

最後に全参加者の投票により地域連携センター長賞、丹波篠山市長賞などの各賞が授与されました。第1位の班は、繁忙期の人手不足を解消する企画として、納税の代わりに丹波篠山で農作業を行って返礼品を受け取るという「ふるさと農業」を提案しました。第2位の班は、丹波篠山市に行って活動することでクーポンが貯まるスマートフォンのアプリを実際に開発するなど、各チームが授業での体験を活かしてユニークな提案を披露しました。



ふれあいスポーツチャレンジ事業（保健学研究科地域連携センター）

現在、障害のある子どもの運動・スポーツへの参加機会は定型発達児と比べて限られています。例えば、市内の特別支援学校でクラブ活動を実施しているのは市立校6校中3校に留まり、実施校においても週1～2回程度、希望者のみを対象としています。保健学研究科では、公益財団法人こうべ市民福祉振興協会とともに「運動を通じた障害者の居場所づくり」を目指し、神戸市北区にある「しあわせの村」において「ふれあいスポーツチャレンジ事業」として三つの教室を展開しました。

一つ目は、小学1年～2年生の発達の気になる児童が体を動かす楽しさを経験し、運動への意欲や達成感を持てる機会と、保護者が学び相互に情報交換をする場を設けることで家族支援の機会の提供を行う「のびのび運動ひろば」です。二つ目は、小学3年～6年生の支援学級の児童を対象に、まずは水に慣れていただき、その後、水中での運動を楽しむことを目的とした親子プログラムの「水中運動ひろば」です。三つ目は、特別支援学校中等部および高等部の生徒を対象に、放課後クラブ活動として色々なスポーツを通じて体を動かす楽しさ等を学ぶ「中高生パラスポーツクラブ」です。

保健学研究科では、秋末敏宏研究科長を研究代表者として、人間発達環境学研究科の協力を得ながら教室運営への協力と効果検証を担当しました。子どもの体力や運動機能評価、子どもが運動教室に参加することが保護者に与える影響等を調査しています。本事業はスポーツ庁所管の「障害者スポーツ推進プロジェクト」および本学の「地域中核イノベーション事業に係る地域連携事業」の助成を受けて、学内外の多様な組織と団体、複数の大学が連携して実施されています。今年度の調査結果は、後日、スポーツ庁のウェブサイトにも公開されます。ぜひアクセスしてみてください。



写真は公益財団法人こうべ市民福祉振興協会提供



姫路フィールドワーク（国際文化学研究科地域連携センター）

国際文化学研究推進インスティテュート（Promis）地域連携センターは、国際人間科学部グローバル文化学科と共同で、1月28日に姫路市でフィールドスタディを行いました。国際文化学研究科（国際人間科学部）、地域連携推進本部、SDGs推進本部の教職員と学生約30名のほか、神姫バスおよび姫路観光コンベンションビューロー（DMO）から8名の職員が参加してくださいました。DMO職員の案内のもと、商業施設やホテルが立ち並ぶ姫路駅前や商店街



のまち歩きをした後、市民会館で学生たちが姫路の観光振興についてプレゼンを行ない、神姫バスや姫路DMOの方々と意見交換を行いました。

国際文化学研究科は3月に姫路市と地域連携協定（部局協定）を締結し、5月に神姫バスとの共同による教育研究活動を計画するなど、今後も観光まちづくりを主題とした地域連携を展開していく予定です。

地域連携推進本部 神戸大学創立120周年記念事業シンポジウム 「つなぐ、地域と大学の27年—災害・復興ボランティアの 全国展開と地域連携のこれから」 (令和4年10月22・23日)

ぼうさいこくたい2022・ALLHATひょうご防災フェスタ参加



神戸大学学生震災救援隊
神戸大学総合ボランティアセンター
神戸大学東北ボランティアバスプロジェクト
神戸大学持続的災害支援プロジェクトKonti

夏日の中、沢山の参加をいただき、東北の岩手大学や福島大学からも学生が参加してくれました。神戸大学を卒業し、社会で活躍している先輩たちよりボランティア・社会貢献の重要性とともに、今も続く阪神・淡路大震災の社会的影響についてのコメントがありました。



神戸大学学生震災救援隊が27年間の活動の振り返り・歴史を「学生による防災体験&展示会」に単独で出展しました。



「ボランティア元年」といわれた阪神・淡路大震災があった平成7年、神戸大学でも学生たちが主体的に被災者を支援するボランティアグループを立ち上げました。あれから27年。東日本大震災、熊本地震など相次ぐ激甚災害の場に活動を広げながら、コロナ禍という逆風にも耐え、先輩から後輩へボランティア活動のバトンが受け継がれています。4団体の学生5人と、地域やボランティア団体の代表、大学教授ら計10人が議論しました。

学生たちからは、「コロナ禍でノウハウを伝えたり、学んだりする機会が減った。コロナなど活動休止のときにも相手先との関係をつくる方法を考えたい」とか、「後輩の確保が難しく、存続にかかわる。神戸大学に限らず外部団体とのつながりも重要だ」「変化していく被災者のニーズにどう対応していくか難しい」などと、悩みや課題が打ち明けられました。

一方、地域住民やボランティア関係者は「被災地の神戸大学だからこそ、ボランティアを続けてほしい」とか「高齢者は孤独な人が多く、学生が傾聴してくれることがありがたい」「学生が遠くから被災地にきてくれるだけで被災者のニーズは満たされている。学生が自分の居場所を見つけることができれば被災地の課題も見える」などと、学生にエールを送りました。神戸大学も阪神・淡路大震災の被災地に軸足を置く大学として、今後もボランティア活動を通じ、災害復興の支援の在り方や防災、減災を伝えていくことが求められています。

「27年間続く神戸大学学生たちの災害ボランティア活動 阪神・淡路大震災の経験を被災地・神戸から全国へ」

神大ホームページより抜粋 <https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/feature/student0001.html>

ボラカフェ2022 (令和4年11月15日・対面/16日・オンライン) ～コロナ禍を乗り越えて、3年ぶりに対面開催しました



“ボラカフェ”は学内のボランティア・社会貢献活動に取り組む団体・サークルが集まり、互いの活動紹介や交流、新しいメンバーへ声かけの場でもあります。

■コロナ禍を乗り越えた学生ボランティア活動

2020年新型コロナウイルス感染拡大防止対策としての活動制限は学生生活に影響をもたらしましたが、22年に制限が徐々に解かれたことで活動が戻ってきています。学生たちはコロナ前の2019年まで実践していた取り組みを復活させ、ノウハウをボランティアの現場で伝えるために、代表や前代表たちが自らの活動期間を延長して支えている団体は複数あります。この度の対面でのボラカフェ開催は、「団体同士の交流と新しいメンバーへの声掛けが重要」との認識のもと、団体代表たちが取り組み実現しました。中心となって参加を呼び掛けた農業ボランティアサークル・AGLOC代表 小山芳輝さん(3年)は「コロナ禍で活動が中断したことで、再開後の活動継続のため代表としての活動期間を1年間延長している」と述べています。

2年を超える活動の制限・自粛期間を乗り越えた学生、あるいは制限のある中で新たにボランティア活動を始めた学生が相互に情報を交換し、刺激があったボラカフェは大切な機会となり、それを現すように、次回ボラカフェ(2023年5月企画)での再会を約束して終了しました。



毎年、代表、学年メンバーが交代する学生団体の多くはLINEやGoogle DriveなどICT機能を使って写真・文書含む様々な情報を保存、それをメンバー間で共有し活動に活かす工夫をし、独自のパンフレットやプレゼンテーション資料を準備しています。

「地域に出るー神戸大学ボランティアのススメ2023」を発行！



神戸大学の様々なボランティア・社会貢献活動と地域連携推進本部ボランティア支援部門の応援や取り組みを紹介しています。活動は多様で「地域に出よう～人と会おう」（震災から続く地元神戸市の地域活動）・「キャンパスから世界へつながる」（留学生・国際交流）・「子どもたちと一緒に」（居場所・学習支援）・「みんな一緒に」（掃除・児童館・障がい者・など多様な地域福祉活動）・「農業すると、人と出会う」（丹波篠山市での農業ボランティア・多世代交流）・「28年前から続く災害・復興ボランティア」「地元で、被災地で活動する」（兵庫県を起点に全国の被災地支援）などがあります。題目の「地域に出る」は学生団体へのアンケートで決まりました。ぜひ、ご一読ください。

学生ボランティア団体の地域活動

■震災追悼行事「1.17KOBEに灯りをinながた」ボランティア活動

阪神・淡路大震災から28回目の1月17日、神戸大学の2つの災害ボランティア団体（東北ボランティアバスプロジェクト・持続的災害支援プロジェクトKonti）がボランティア活動に参加しました。

今回初参加のKonti代表・杉山 紗也乃さん（4年）は「どんどん震災を知らない世代が増える中で、このように当時の経験や学びなど、私達が普段知ることの無いことが受け継がれていく場になるのだとも感じました。世代、立場、居住地関係なく集って話し、そして当時を想って灯をともしこの行事に参加させていただくことが出来てとても光栄でした」と地域での活動の大切さを話していました。



神戸市長田区
鉄人広場
令和5年1月17日



丹波篠山市民センター 令和5年2月26日



■第3回 丹波篠山研究発表会（学生ボランティア団体の活動報告）

丹波篠山市で活動する大学が一同に会し、様々な取り組みがイキキと紹介されました。学生の活動は主に「大学の実習」「教員とゼミ」「ボランティア団体活動」に分けることができ、神戸大学の学生ボランティアは3団体（にしき恋・AGLOC・Luonto）が報告しました。会場には学生・大学を受け入れている丹波篠山地域住民皆さんが応援にお越しになっていて、温かい思いが伝わってきました。会の最後にはLuontoが会場投票1位で「丹波篠山市長賞」を受賞し大きな拍手に包まれました！

灘区大学と連携したまちづくりチャレンジ事業補助金報告 交流会への参加（令和5年2月25日）

灘区役所の「まちづくりチャレンジ補助金」を受けている団体のオンライン報告会において、神戸大学6団体・神戸海星女子学院大学1団体、神戸松蔭女子学院大学1団体から、それぞれ1年かけてがんばってきた多様な取り組み紹介がありました。

学生たちの報告からはコロナ感染防止対策が緩和され始めた令和4年6月頃から活動を再開し、空間的・時間的な変化を埋めるための様々な工夫が伝わってきました。

その後の交流会では①広報、②地域連携について話し合い、対面での交流を増やしたり、互いの活動を訪問するなどの意見があり、今後、一層の展開が期待されます。



神戸大学学生ボランティア団体
灘地域活動センター(N.A.C.)

令和4年度 神戸大学・灘区まちづくりチャレンジ事業助成採択課題

教員1件 ※詳細は灘区ホームページをご覧ください。 <https://www.city.kobe.lg.jp/c63604/kuyakusho/nadaku/kekaku/renkei/index.html>

団体名	補助事業の名称	事業責任者
国立大学法人神戸大学 大学院人間発達環境学研究科	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト	人間発達環境学研究科 教授 岡田 修一

学生5件

団体名	補助事業の名称
まちプロジェクト実行委員会	まちプロジェクト'22
障がいのある青年の生涯学習支援会	女子会+
神戸大学ベルカン(六甲台学生評議会)	灘区デジタルマップ化プロジェクト
神戸大学天文研究会	なだ星まつり
灘地域活動センター(N.A.C.)	灘区内の災害復興住宅の集会所におけるふれあい喫茶の運営、戸別訪問活動

令和4年度 地域連携公募事業

地域連携事業（教職員対象）

部局名	活動内容	事業責任者
海事科学研究科	東灘区在住者向け こどもいろいろ体験スクール／防災意識向上イベント	海事科学研究科 科長 阿部 晃久
医学研究科	兵庫県内の医療過疎地域の高校生を対象とした医療系人材育成促進事業	医学部附属病院 特命教授 河野 誠司
計算社会科学研究センター	海と山の街、神戸の風景をつくる	計算社会科学研究センター 特命講師 小代 薫
国際文化学研究科	姫路市における地域文化・地場産業の振興と地域の国際化	国際文化学研究科 教授 岡田 浩樹
工学研究科	有野台団地 再生・活用プロジェクト	工学研究科建築学専攻 准教授 栗山 尚子
工学研究科	神戸市立青少年科学館における研究成果のインタラクティブな常設展示空間の共創	工学研究科 教授 寺田 努、助教 大西 鮎美
国際文化学研究科	地域の戦災記録/記憶の次世代継承と可能性	国際文化学研究科 教授 長 志珠絵

学生アクションプラン（学生対象）

団体名	活動内容	事業責任者
神戸大学保全生態学研究会	西宮市の天然記念物の学術調査と啓発活動	農学研究科 准教授 石井 弘明
プロジェクト福良	プロジェクト福良	工学研究科 准教授 近藤 民代
母子健康応援プロジェクト	母子にやさしい街づくり	保健学研究科 教授 小野 玲
地域交流創出の会「なごぶい」	URグリーンヒルズ六甲における社会的交流促進活動	人間発達環境学研究科 教授 片桐 恵子
神戸大学学生震災救援隊	救援隊の歴史を学ぶ会	大学院経済学研究科 教授 梶谷 懐
まなびと学生部	こどもと外国人をつなぐ国際交流キャンプ	人間発達環境学研究科 教授 太田 和弘
ESDプラットフォームWILL (大船渡ESDプロジェクトチーム)	大船渡市赤崎地区まちづくり再活性化支援プロジェクト	人間発達環境学研究科 教授 松岡 広路

地域中核イノベーション事業に係る地域連携事業

部局名	活動内容	事業責任者
経営学研究科	ノンバーバルコミュニケーションキャンプトライアル事業	経営学研究科 准教授 原 泰史
経営学研究科	六甲山の植林および間伐材利用に関する地域の学習体験を通じた、持続可能な防災体制構築に関する事業	経営学研究科 教授 松嶋 登
人間発達環境学研究科	公立小学校内における「校内フリースペース」の開発と展開	人間発達環境学研究科 准教授 赤木 和重
保健学研究科	ふれあいスポーツチャレンジ事業	保健学研究科 教授 秋末 敏宏

活動報告（令和4年10月～令和5年3月）

年度	月	日	担当	活動内容
令和4年	10月	3日	大学	ひょうご神戸学（第3Q）開講（オンライン）
		6日	大学	地域社会形成基礎論（第3Q）開講（オンライン）
		12日	大学	市長と学長との懇談会
		22日	国文	姫路フィールドワーク
		23日	大学	ALLHATひょうご防災フェスタ「つなぐ、地域と大学の27年」開催
		27日	大学	定例会議開催（10/27、11/17、12/15、1/12、1/26、2/16、3/2、3/9）
		27日	大学	避難訓練への協力
	11月	10日	大学	第1回大学連携実務担当者会議（神戸市）への参加
		15日	大学	ボラカフェ開催（対面）
		16日	大学	ボラカフェ開催（オンライン）
		29日	大学	ラジオ関西「Clip」GO！HYOGO！内で本学地域連携事業の紹介（11/29、1/31）
		12月	8日	大学
10日	大学		歴史と文化領域シンポジウム 「地域歴史遺産としての遺跡－栗山庄下川遺跡をめぐって－」への参加	
12日	大学		「2022神戸のつどい」へ出展	
令和5年	1月		20日	大学
		21日	人文	第21回歴史文化をめぐる地域連携協議会「自治体史編さんの現在」
		21日	農学	実践農学発表会
		28日	国文	姫路フィールドワーク
	2月	9日	大学	大学発アーバンイノベーション神戸成果報告会
		25日	大学	大学と連携したまちづくりチャレンジ事業補助金報告・交流会への参加
		26日	農学	第3回丹波篠山研究発表会への参加
		28日	大学	「地域に出る－神戸大学ボランティアのススメ」パンフレットを発行
	3月	1日	大学	神戸大学とラジオ関西が連携協定締結
		9日	大学	地域創生に伝える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム連絡会（ハイブリッド）
19日		保健	保健学研究科地域連携センター活動報告会	
22日		国文	姫路市と部局協定締結	
27日		大学	灘★こども塾「江戸時代のくずし字読解にチャレンジ！」	
27日		大学	ボランティア支援部門によるボランティア団体・学生向け説明会（ハイブリッド）	
29日	大学	中津市歴史博物館協議会への参加		